

韓国人口学会2019年度前期学術大会

日本人口学会は韓国・台湾・タイの人口学会と協定を結び、それぞれの学会に入会しなくても大会に参加・報告できる。2019年6月14日に統計庁統計教育院（大田広域市）で開催された韓国人口学会2019年度前期学術大会には、日本人口学会から筆者と林玲子・国際関係部長が参加し、報告を行った。林部長はセッション2-1「Aging and Health（英語セッション）」で“Care need in very old age: A comparison of four countries”と題する報告を行い、筆者はセッション1-2「東西洋の人口」で“Introduction to comparative population history of Eastern Asia”を報告した。韓国人口学会の学術大会では、各報告に一名ずつ討論者が割り当てられる。林部長の報告には高麗大学の黄命鎮教授、筆者の報告にはソウル大学の殷棋洙教授が討論者となり、フロアを含め活発な質疑応答があった。

（鈴木 透 記）

2019年度日本女性学会大会

2019年6月15日（土）～16日（日）、一橋大学国立キャンパスにおいて、2019年度日本女性学会大会が開催された。15日午後の大会シンポジウム『男性性研究で何がみえてくるか——「下駄を履いて」いること、セクシュアリティ、加害者性』では江原由美子、すぎむらなおみ、田房永子、平山亮が報告した。16日には9つの分科会において、合計24の研究報告および2つのワークショップが行われた。釜野は、北仲千里と藤原直子との連名で、『性的マイノリティのパートナーからの暴力（DV）被害と相談行動にかんする調査——第一次集計分析』を報告した。その他にも『「LGBT」にとって「地方」とはいかなる場か——ルーラリティをめぐる語りの分析から』（横山陸）、『障害女性の子宮摘出手術をめぐる語り——80年代初頭の障害者運動と女性運動との対話に焦点をあてて』（瀬山紀子）、『日本キリスト教徒による荻野式避妊法の受容について』（横山美和）、『「中絶」の脱スティグマ化とノーマライゼーション』（塚原久美）、『少子化対策としての「官製婚活」—事業の担い手に着目して』（斉藤正美）など、人口問題に関連する研究報告が行われていた。

（釜野さおり 記）

比較家族史学会第65回春季研究大会

2019年6月15日（土）、16日（日）の2日間、お茶の水女子大学において比較家族史学会第65回春季研究大会が行われた。大会は1日目午前に自由報告が行われ、1日目午後から2日目にかけてシンポジウムが行われた。今大会のシンポジウムのテーマは「世代間関係」で、「世代間関係の歴史的展開」「現代日本における世代間関係の諸相」「東アジア社会における世代間関係の変容」「世界の多様な世代間関係」の四部構成になっており、歴史学、法律学、人類学、社会学などの多様な研究分野の研究者による報告が行われた。シンポジウムのプログラムは以下の通りである。

1日目（6月15日土曜日）

趣旨説明 小池誠（桃山学院大学）

「近世大名における『家』構成員をめぐる世代間関係」

根本みなみ（筑波大学）

「明治民法下の世代間関係の理念と実相—扶養法と『家』制度を中心に—」

宇野文重（尚絅大学）